

# NARO RESEARCH PRIZE 2017

## 東北・北陸地域に適するタマネギの春まき夏どり作型

山崎 篤<sup>1)</sup>、山崎浩道<sup>1)</sup>、片山勝之<sup>2)</sup>、木下貴文<sup>1)</sup> (1東北農業研究センター 畑作園芸研究領域、<sup>2</sup>西日本農業研究センター 営農生産体系研究領域)

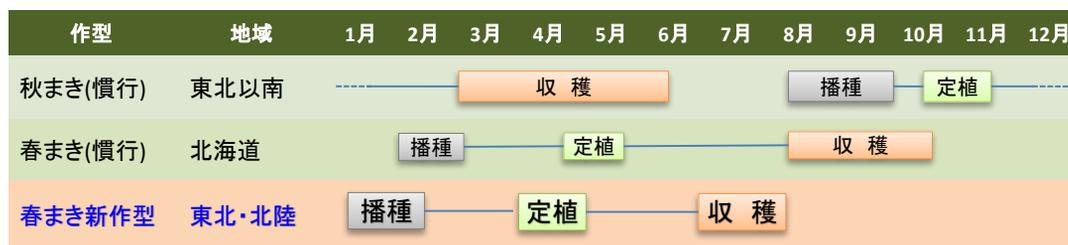
### 研究の目的・背景等

近年、水田転作品目として、また国産シェア奪還のためにもタマネギ増産への期待が強い。特に加工・業務用向けの端境期となっている7、8月の需要が高い。しかし、東北・北陸地域においては慣行の秋まき作型の生産性が低く、栽培が広がらない。そこで、これらの問題を一挙に解決することが期待できる、新たな春まき夏どり作型の開発を目指した。

### 研究の概要

タマネギの東北・北陸向け春まき作型について、岩手県、山形県、富山県及び弘前大学と共同で、適する品種、播種時期、育苗中の施肥条件等を明らかにした。さらに、定植後の施肥・水分管理、雑草・病虫害防除法などを開発・体系化し、新たな東北・北陸地域のタマネギ栽培体系を提示した。本作型により、慣行栽培を大きく上回る生産性と端境期出荷が可能になった。さらに、水田作との作業競合が少なく、また秋冬どり野菜との二毛作が可能となるなどの利点も有する。本作型は平成29年度には東北地域の35 haに導入が進み、今後も新興産地形成への貢献が期待される。

タマネギの慣行作型と開発した東北・北陸向け春まき作型



木下貴文・山崎 篤・片山勝之・山崎浩道

技術マニュアル  
「東北・北陸地域におけるタマネギ  
の春まき栽培技術—技術解説編」